

潜入!!

制作

工事現場



途ちゅアフター

第30回 >>> 広報かしわ制作



トチュー調査員

今号の広報かしわはなんと1700号目！
記念に「ベルサイユのばら」とコラボレーション
すると聞いて、僕も主人公のオスカルに変身！
長い歴史のある広報誌は、今どんな風に作られて
いるんだろう。制作の裏側を紹介するよ

昭和29(1954)年9月に第1号が発行された広報かしわは、今号で1700号目を迎えました。第1号の名称は「東葛市報」。およそ70年の間、時代と共に変化を続け、令和5(2023)年5月号では誌面を小型の新聞サイズからA4サイズの冊子へと大幅リニューアルし、市内の全世帯へ配布しています。

広報誌制作は発行3カ月前に行われる企画会議からスタート。職員がそれぞれアイデアを持ち寄り、主に特集テーマなどを話し合います。毎月誌面に掲載される記事の数はおよそ130件もあり、これを5人の担当に割り振ります。32ページの誌面に情報を収めつつも、伝わりやすく仕上げるため、イベントやお知らせの担当部署との確



止まらないアイデアに
白熱の企画会議



僕もこの会議で
生まれたんだって！

トチュー

調査員の



もっと 知りたい!



表紙には他にどんな工夫がされているの？

A 実は毎月、季節や特集内容などに合わせて、ミニイラストとコメントを変えています。今月のイラストは、ベルサイユのばらの主人公オスカルのプローチです

kashiwa

柏市が皆さまにお伝えしたいこと

広報かしわ

10

October 2025

感謝を込めた、バラ香る記念号

広報かしわ

10

October 2025

感謝を込めた、バラ香る記念号



いろいろな表紙を
作ってきたんだね



▲71年前の広報誌

認を重ねたり、全てのページに何度も目を通し、気付いたことを共有したりしているのだとか。また、記事を作る人によって表現の仕方が変わってしまうことがないよう、文言を統一するための細かいルールがたくさんあります。

中でも力を注いでいるのが、6ページ構成の特集です。地域のかたや事業者の協力を得ながら、実際に職員が取材した内容を記事にしています。さらに、表紙から伝えたいことを感じ取ってもらい、より多くのかたに、興味を持って表紙をめくってもらえるよう、表紙の構図や言葉、写真の撮影には試行錯誤を重ねています。時には撮影用の小道具を自作したり、納得のいくまで場所や構図を変えて何度も撮影したりと、根気のいる作業ですが、良い写真が撮れた時の達成感は格別です。



開催前のイベントを表現するために、ランタンを手作り

1700号目を迎えても、まだまだ通過点。これからも柏の情報を分かりやすく届け、読み続けてもらえる広報誌を目指していきます。

【問い合わせ】 広報広聴課 ☎7167-1175・FAX 7166-8289